

タヌキまるごと図鑑

盛口満・作

大日本図書 (1997年7月)



やまゆの会でも話題になったように、最近、西緑地でタヌキの目撃情報が相次いでいる。このあたりには昔はタヌキがいっぱい住んでいた。それが開発で住みかを追われたとはいえ、まだ残された緑地にひっそりと、しかしたくましく生きているのだらう。

すぐ近所に住んでいるこのお隣りさんのことを、我々はどのくらい知っているだろうか。『タヌキまるごと図鑑』を読んで、自分のタヌキ理解度を確かめてみよう。本書の最初のページは、中高生の描いたタヌキの絵で始まる。アライグマみたいだったり、リスのようだったり、犬のようなタヌキまで……。次のページは、タヌキのほかに犬や猫、アナグマやキツネなどの絵が描か

れていて、どれがタヌキかな？とクイズになっている。あなたはどのくらい正解できますか？

タヌキは夜行性なので直接その行動を知るの難しいけれど、きまった場所に糞をするという習性をもっている。タメフンと呼ばれるこのタヌキ用公衆トイレに残された糞が、タヌキの食べ物、行動範囲など、彼らの生活を教えてくれる。どうやらアケビやカキなどの果物、セミやミミズなど、そして家庭の生ゴミなども食べているらしい。マヨネーズの容器やゴルフボールなどまで、噛んで味見をしているようだ。

でも、そんな風に人の近くで暮らしているので、交通事故にあうものも出てくる。ペットからうつる疥癬^{かいせん}という病気になり、毛が抜けたタヌキも見受けられる。ペットなら獣医さんに治療してもらえるが、タヌキは弱って死んでしまう。

実は町に住むタヌキが安心して暮らせる町づくりを考え、いち早く提案したのは、能が谷のタヌキ調査をした「タヌキ実行委員会」だった。その活動は、『森の新聞 タヌキの丘』(小川智彦・著 フレーベル館)に詳しく報告されているので、あわせて読んでほしい。